

農産FAX情報 第8号

令和7年9月1日

ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) は種適期

○「きたほなみ」は、越冬前までに主茎葉数5葉、茎数370~900本/m²程度が適正とされ、900本を超えると倒伏の危険が高まります。表1の適期には種作業ができるよう準備を進めましょう。

(2) は種量(例年よりも千粒重が軽く、は種量に注意)

○は種量は、は種時期に合わせて調整しましょう(表1)。幕別町忠類で使用予定の種子生産地および千粒重は以下のとおりです。

十勝清水町産 34.1 g、 本別町産 37.2 g、
足寄町産 35.9 g、 種苗センター産 36.8 g

表1 は種量の目安 (大樹アメダス平年値使用)

区分	適期播き	やや遅播き	遅播き
は種日	9月21日	9月25日	9月28日
は種粒数(粒/m ²)	166粒/m ²	213粒/m ²	273粒/m ²
十勝清水産 は種量(kg/10a)	5.7kg/10a	7.3kg/10a	9.3kg/10a
本別町産 は種量(kg/10a)	6.2 kg/10a	7.9kg/10a	10.1kg/10a
足寄町産 は種量(kg/10a)	6.0kg/10a	7.6kg/10a	9.8kg/10a
種苗センター産 は種量(kg/10a)	6.1kg/10a	7.8kg/10a	10.0kg/10a

※は種量は、越冬前茎数800本/m²、出芽率90%で算出

○土壌水分が高いほ場では、出芽率低下を考慮して表1から1割程度増量してください。

○適正なは種深度は2~3cm程度です。深播きは、出芽率の低下や二段根の発生、雪腐病等の発生要因となります。

(3) 施肥

○基肥窒素量は肥沃度が低い場合や、有機物のすき込みによる窒素飢餓が懸念される場合は4kg/10a程度を目安とし、前作やたい肥投入に応じて施肥量を減じてください。リン酸、カリ、苦土については土壌診断の結果に基づき施肥量を調節しましょう。

(4) 除草剤の使用

○イネ科雑草対策には秋期の土壌処理が効果的です。小麦3葉期までに、土壌処理作業を行いましょう。

2 てんさい

○褐斑病、葉腐病の防除

- ・褐斑病、葉腐病の発生が見られております。9月以降も引き続き防除を実施しましょう。

○シロオビノメイガの防除

- ・シロオビノメイガによる被害が散見されており、ほ場では成虫が数多く確認されております。今後の被害拡大に注意が必要です。防除を行う場合は薬剤の使用時期に注意しましょう（表2）。

○シロイチモジヨトウの防除

- ・昨年よりも道内での発生が多く確認され、北海道防除所より注意報が出されております。9月の気温は平年より高いと予報されており、シロイチモジヨトウの活動も活発になるものと予想されます。発生を確認したら速やかな防除に努めましょう（表2）。

表2 シロオビノメイガ、ヨトウガに登録がある薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用回数	使用時期
プレバソンフロアブル5	ジアミド	4000倍	2回	7日前まで
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド	5000倍	2回	前日まで

3 豆類

○小豆におけるマメノメイガの防除

- ・莢を束ねて食害する飛来性の鱗翅目幼虫の発生が多数確認されております。ほ場観察を行い、ノメイガ類に効果のある農薬を選定し防除を実施しましょう（表3）。

表3 ノメイガ類に登録がある薬剤例(大豆, 小豆)

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用回数	使用時期
モスピラン SL 液剤	ネオニコチノイド	2000倍	3回	14日前まで
プレバソンフロアブル5	ジアミド	4000倍	2回	7日前まで
グレーシア乳剤	イカリガリ	3000倍	2回	14日前まで

収穫が近い作物への**ドリフトに注意！**

トラクタや作業機には**早めのライト点灯！**

作業中の収穫機点検は**必ずエンジンを止めて！**